

「ほら、言われた通りの格好に着替えたよ。

これでいいんでしょう？」

「よ〜しいい眺めだ。見込んだ通り可愛い顔して
エロい身体してやがるぜ。」

「うう…お前に身体で奉仕すれば、
本当にUMP45の無事は
保証してくれるんでしょうね！」



「ああ、お前が素直にしてくれるならアイツには手エ出さねえよ。それよりほら、これが今からお前を淫乱メスに変えるチンポだぞ〜」
「め、メス…!? 最低! そんなもの見せつけないでよ!」
「やりたいならさっさとやればいいでしょ!」

ピキッ

（許せない…! あたいはこんな男に
良いようになんてされるもんか!
絶対に耐えて、
隙を見つけてUMP45と一緒に脱出するんだ!）

「まったく、ご奉仕する心構えつてのがなつてねえな。
とはいえ今までこのチンポで堕ちなかった女はいねえ！
その強がりがいっつまで持つかな〜？」

キッ

「残念なお知らせだけど、あたいは絶対に
こんなものには負けない！
あんたこそ、その自信がへし折れる心配を
しておきなよー！」



「中々良い具合じゃねえか！
どうだ？ 俺のチンポの味は！」

っ

ひっ

「ちよっ そんな激しく動かないで！
こんなの… うっ ふあ！
く、苦しいだけなんだから…！」

っ

ずちゅ

ずちゅ

(そんな… これおかしい…!! なんでこんな…!!
奥を突かれる度にこっちの意思なんて関係なしに
どんどん感度を上昇させられてる…!!)

んっ

んっ

キム

ぱちゅ

ぱちゅ

ぱちゅ

ぱちゅ

(こっぴつこの形も動きも…女の子の弱いポイントを
的確に刺激するようになってるんだ…!!
でも…これくらいならメンタルへの負荷は許容範囲内…!!
演算能力に影響はない…!!)

「ククツ まだまだ余裕そうだなあ？」

「っ!! あたりまえでしょ!!」

別にこれくらいどうとらふこと無いからー!」

ゾク

ゾク

「強がっっちゃいるが、このチンポを入れられた女は
どんな堅物でも発情スイッチが入っちゃうんだ。
それは人間を模して造られたお前らも例外じゃねえ。
じゃあ、そろそろ本気でいかせてもらおうぜ?」

ぱちゅ

ぐりゅ

ぐりゅ

すちゅ



「オラッ！ここからはがっちりホールドしながらの
ガチピストンだ！
衝撃を逃がせない状態でこれはキクだろ…!？」

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「うぎっ!? くああ! ひあっ!」
（そんなんっ 今まで本気じゃなかったなんてっ!
これっ衝撃が身体の奥まで響いて…っっらい…!!）



「さっきとは比べ物にならないねえだろ？
しっかりと俺のチンポの形を
憶えさせてやるからな！」

ゾク♡

あっ

ゾク♡

ゾク♡

はあ

（これだめ！ 絶対にまずい！
こんなのでイッたら絶対忘れられなくなる！
なのに…！ どんどん…頭が真っ白に…!!）

チンポ♡
チンポ♡

チンポ♡

チンポ♡

チンポ♡

チンポ♡

チンポ♡



「締め付けがキツくなってきたなあ!!

イキそうなんだろ?」

オラっ! チンポの形

メモリに焼き付けてイケ!!」

ゾク

ゾク

ゾク

ゾク

ゾク

キュン

キュン

「いやっ ちよ 止めっ ダメ

ほんとに... やだっ こんな...憶えたくないっ

あっ あああ!?! ひあああああ!?!」





あゝあゝ

ゴッ

あゝあゝ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

あゝあゝ

あゝ

キコキコ

ド

ド

ゴッ

ゴッ



「ククク、派手にイッたなあ？」

は——♡

は——♡

は——♡

は——♡

ビク

ビク

ムクムク

ムクムク

ムク

ムク



「だかこれで終わりじゃねえぞ。
俺はまだまだ満足してねえからなあ。
さあ、次は自分で動いてチンポに奉仕してみる。」

「自分で…!? そんなこと出来るわけ…!」
「おいおい、UMP45がどうなるか分かってるのか?」
「!? ……わかった…。やればよいんでしょ!」



「いっ、これでどうっ?」

「おう、ぎこちないが

これはこれで悪くはねえ。」

ふっ

んっ

「だがもつと頑張つて腰振らねえと、

いつまでたつても俺は満足させられねえがな。」

「くっ…!」

わ、わかつたよ…!」

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ



「ううう…自分からこんな恥ずかしい動きをしなきゃならないなんて…」
「お、物覚えが良いじゃないか。」
「いいぞその調子だ。」

あっ

はんっ

「そのエロい胸もしっから揺らして
発情メスアピールしろ。
見た目でも楽しませることを忘れるなよ。」
「はっじよ…!? そ、そんなこと…!」

ちゅーん

ちゅーん

ちゅーん

ぬーん



(ううう 否定したいのに...
ただこの男を満足させるために
やってるだけのはずなのに...)

はー

はー

はー

はー

はー

(動けば動くほど...)

さっきのを思い出して...身体が切なくなってる...

あたいの身体... こいつのちんぽを

完全に憶えさせられちゃったんだ...)

ぱちゅ

ウズ

ウズ

ちゅぽ

ちゅぽ

ぱちゅ

(はあっ もっと…もっと奥ギリギリしたい…
くう…自分で動くだけだと…物足りない…
ダメ…もっと…強い…欲しい…)

はっ

ふーっ

はっ

ふーっ

ふーっ

はっ

(さっきみたいなの…ぎゅっとなげられながら…
強引に…はっ あん…
…って! そんな…あたい、何を考えて…!)

ぱっ
ちゅ

ぱ
ちゅ

ず
ちゅ

ば
ちゅん

キュン
キュン

「おいおいどうした、随分息が荒いじゃねえか。
もしかしてさっきみたいに激しく責められたいのか？」
「なっ！ そんなことっ…!!？」

ドキ

ドキ

ウズ

ウズ

ドキ

ドキ

「まあ、お前からどうしてでもいいから
お願いしてくるなら、また動いてやってもいいかな？」
「お、おねが…い…?」



くっっ この男にお願い…!? そんなの絶対にダメ…!!
なのに…またしてもらえるかもって聞いた瞬間…
お腹がキュンキュンし始めちゃってる…
身体が…期待しちやつてる…!

ドキ

ドキ

ゾク

ゾク

キュン

キュン

キュン

キュン

ドキ

ドキ

ゾク

こんな状態じゃ、冷静な判断も出来ない…
もう一度だけイけば、この疼きも収まるかもしれない…
それに従順になつたふりをすれば、こいつも油断するかも…

(そう…！ これはこいつを油断させるため…！
どうにか隙を見つけてUMP45を助けて、
ここを脱出するのがあたいの最優先事項…！)

んっ↓

そわ↓

んあ↓

そわ↓

そわ↓

はっ↓

(これは…作戦に必要なことなんだ…！
それに、あと一回くらいならさっさきのだって
メンタルに影響なく耐えられるはず…！)

ドキ↓

ドキ↓

キュン↓

キュン↓

じゅわっ↓

キュン↓

キュン↓

キュン↓

キュン↓

ドキ↓

ドキ↓



「……ごます……」

「ああ？聞こえねえなあ」



「お願いしますー！」

さつきみたいに思いつきり動いて、
またあたいをイカせてください!!」



「おーしいい子だ。

ほら、お待ちかねの

孕ませピストンで負けイキしろー!」

ギョウ

そわ

ドキッ

ドキッ

ドキッ

(大丈夫…身体がおかしくなってるだけ…

メンタルまでは墮とされない…

UMP45のことを想っていれば…

絶対に耐えられる…!)

そわ



あ

ッ



ア
ッ
ッ
ッ

ア

ア
ア

ア
ッ
ッ
ッ

(あっ これっ♥ ダメなやつだ♥
2どめでかんぜんにわからされた♥
あたい、もうとっくにメンタルまで
くっぶくさせられてたんだ♥)



あゝゝ

ん

あは

ア

ニ

ア

ア

ア

ガ

ガ

ガ

ガ

ガ

ガ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

キ

ン

ガ

あ

あ

あ

あ

「俺はお前のご主人様だ！」

「ごしゅじん…さま…？」

「ならお前の役割はなんだ!？」



「はひっ あたいは… あたいはあ…♥

このすけべなからだで…ごしゅじんさまに

きもちよくなつてもらう…めすあなおなほでしゅう!!♥

ズチャ

ズチャ

ばち

ばち

「よーし上出来だ！ そろそろおすべー！

中でしっぴかり飲み干しながらいけ！」

ゾクッ♡
ゾクッ♡
ゾクッ♡

ゾクッ♡

キュウウウ♡

ぱんぱんぱん

「はひっ♡ 中に出されてっ♡

あたいもイキますっ♡ ああっ♡

ああああああ！！♡



「ふう…こりや久しぶりにいいメス手に入れたぜ。
まだまだ全然収まらねえ…
よし、今夜はぶっ通しで使ってやるから覚悟しろよ!!」

ドキ♡
ドキ♡

ドキ♡

キュ♡

ブル♡

「あひ♡ ありがとう♡」

ブル♡



「はっ あは…♡ はひっ♡」

「……あれ？ あたい、なにかだいじなこと
わすれてるような…
……ま、いつか♡」





































































